令和８年度

研究だより

No.4

～単元デザインを核とした授業づくり～（3 年次）～

研究推進委員会

第4回　校内授業研　2年生《国語科》

単元名：ミッケ！がまくんとかえるくんのひみつ　～自分だけの「ひみつ図かん」をつくろう～

☆事後研で話題になったこと☆

〇単元で付けたい力を明確にしたうえでの、自分だけの「ひみつ図かん」をつくるという単元を貫く言語活動が子供たちの実態に合っていて、意欲を引き出していた。

〇「ことばの木」、「並行読書マトリックス表」、「がまくんの家」など、子供たちが意欲的に学習に取り組むことができる環境の工夫が良かった。

〇「ことばの木」によって、子供たちの語彙の高まりを感じる。言語化が苦手な子供が自分の感情や、気持ちにぴったりの言葉を見つけられたり、本単元が終わった後にも「ことばの木」を有効活用したりできる。

▲自由交流のスペースを別に確保したが、交流は隣同士や教室でも可能である。また、書く作業の時には手元に手本や手引きがあった方がよい。

▲学習活動の流れが「書く→交流する」であったが、それでは書いたものを読むだけの交流、書けないとできない交流、本文の叙述に戻りにくい交流になってしまう。

▲交流が盛り上がらなかった。また、交流の質を高めたかった。

☆どうすればよかったのだろうか。

⇒書く→話すの流れは発表会に近いため、避けたい。まずは考えながら交流し、見通しが持てたら書くという逆の流れにした方が良い。

⇒モデル動画の改善。音量を上げたり、見せ所（交流のポイント）をズームしたりといった工夫をしたい。

⇒モデル動画を視聴した後に、交流のポイントをじっくりと確認したい。

⇒交流では一往復半以上の交流を目指したい。「A 伝える→B 感想、質問→A 質問に応える・・・」

☆助言者より☆　《指導主事より》

・子供の姿を見取ることが大切。見取りがないと、支援ができない。子供の姿、つまずきを見取ったうえで、C の児童を B に上げる取りこぼしをしない支援をしていきたい。

・学習課題は子供たちが夢中になって考えたくなるものにすることが大切。また、学習の環境を工夫したり、座席配置を工夫したり、ICT を活用したりしながら、子供たちの意欲を高めてほしい。

・何ができれば B 規準の達成なのか、教師がその基準の解像度を上げていく必要がある。
例：登場人物の気持ちや行動を具体的に想像できていれば B なのか、それを自分の体験と結び付けて感想を持つことができるところまでできれば B なのか。など

☆「深い学びの実現に向けて」チャレンジしたいこと☆

・子供たちに交流をさせる際には、書いてから交流ではなく、まず交流ができる手立てを考えること。「交流がしたい。」「交流をしてよかった。」と子供たちが思えるような仕掛けを考え、繰り返すことで質を上げたい。

・単元ごとに評価の基準および見取りの視点を明確にすること。
子供の思考やつまずきを丁寧に見取ることで、適切な支援につなげていきたい。



☆研究主任より☆

今回の研究授業は、学級の実態に合わせた言語活動を指導者がゴールとして設定し、学習計画を組みました。単元名にもこだわり、子供たちの学習意欲をより高めることができていたと思います。「がまくんの家」で語り合う子供たちの姿がとても印象的な場面でした。

事後研の中でも話題になりましたが、「書く」活動に取り組む上で重要なことは、【自分が何を書きたいのか】【どのように書きたい（まとめたい）のか】を明確に自分自身が意識できているかということです。書くことが得意な子供にとっても苦手な子供にとっても、友達と話すことでより自分の考えがまとまったり、広がったり深まったりします。

「この本の〇〇なところが気に入っているんだけど…理由は…うまく言えなくて…。」
「それってさ、つまり△△ってこと？」　「う～ん…。それもちょっと違って…。」　「じゃあ…。」

こういったやり取りの中で自分の思考を言語化する経験を積ませたいのです。そして言語化する上で必要になるのはやはり語彙力です。だからこそ、今回の単元デザインの中に語彙を増やす手立てとして「ことばの木」を掲示するというものがありました。低学年のうちはもちろんですが、高学年になっても掲示しておくことで、質の高い言語環境が整備させることに改めて気づきました。ぜひ、全学年でも意識したいポイントです。※（辞書もたくさん活用していきましょう！）

先日の職員会議でもお伝えしたように、授業研で学んだ技術やポイントをぜひ、自分の学年の国語の授業はもちろん、他の教科でも生かしてほしいと思います。子供同士が目的をもってたくさん話し合いができる授業づくりをしていきましょう。。







